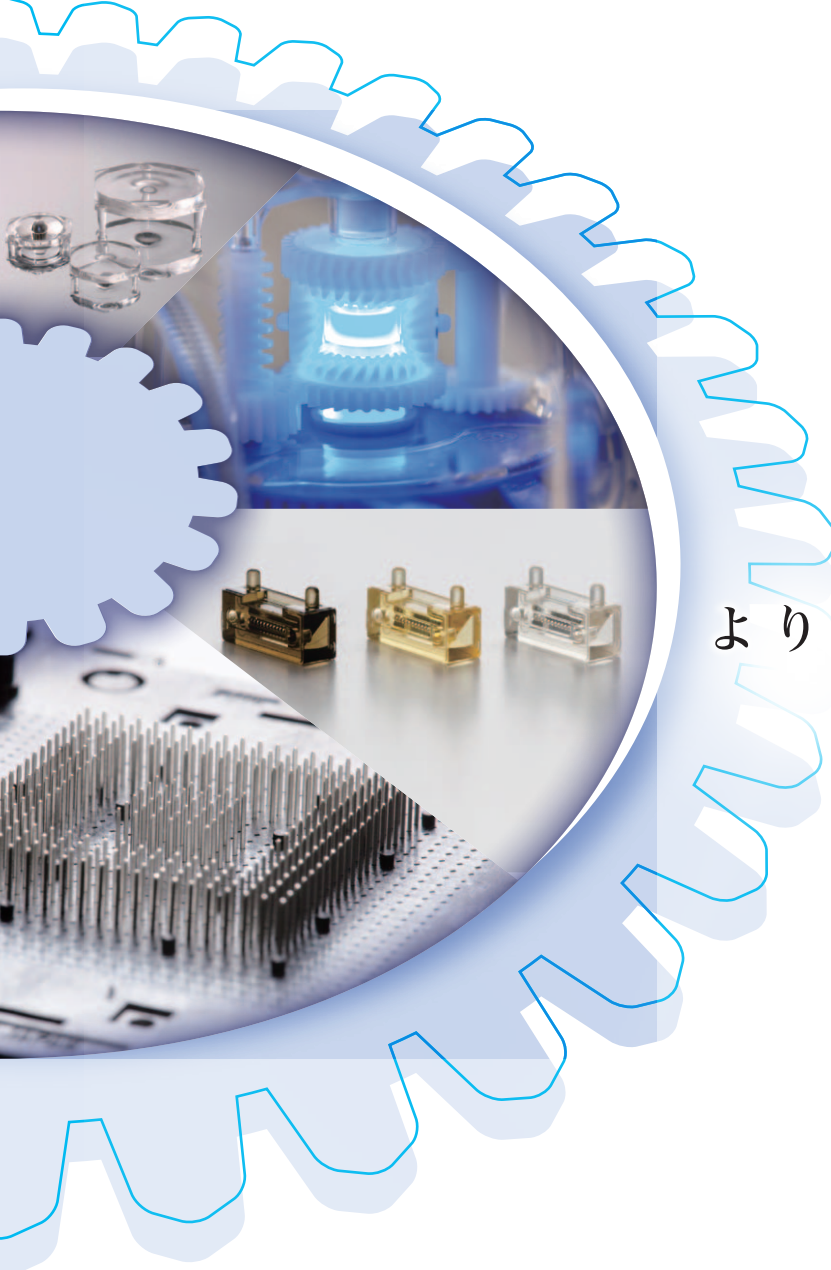


株式会社エンプラス

(証券コード:6961)



よりよき明日を目指して

平成28年3月期 (第55期) 報告書  
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

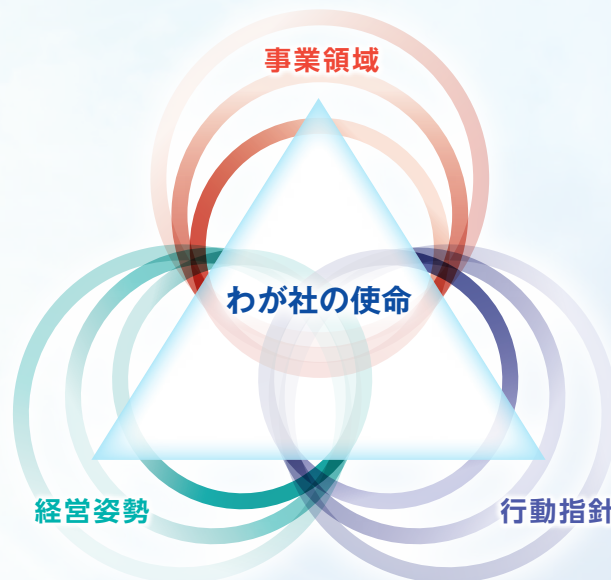
**enplas**



株式会社エンプラス

## Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 07. 特集 “Global Enplas” のさらなる進展に向けて
- 08. 連結財務の状況
- 09. 会社概要 / 株式情報 / 株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



### わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

### 事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

### 経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

### 行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。



## 株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリングプラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。

代表取締役社長

横田大輔

### 当期（第55期）の事業環境と経営方針

当連結会計年度における世界経済は、米国では、雇用・所得環境の改善が続き、景気は底堅く推移しましたが、中国においては、上海発の株価急落、人民元の切り下げ実施等が世界経済に大きな混乱を引き起こし、内需・外需ともに弱さが鮮明となり、景気減速感がさらに強まりました。他の新興国市場においても中国経済の減速、原油安、米国の利上げによる投資資金の引き上げという外部環境の変化の影響を強く受け、依然として先行き不透明な状況が続いています。

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業業績と雇用環境の改善を受けて緩やかな回復基調が続きました。しかし、中国の景気減速に端を発する世界経済の先行き不透明感や為替変動リスクなど、景気の先行きは予断を許さない状況が続いています。

このような状況の中、当社グループでは、さらなる成長を目指すため、以下を当期の経営基本方針として取り組んでまいりました。

1. Growth Oriented/成長志向
2. Global Optimization/グローバル最適化
3. Cost Reduction/コスト削減

また、上記経営基本方針の下、グローバル競争の激化等、当社を取り巻く環境の変化に迅速に対応し、企業価値の向上および株主価値の拡大を図るべく次の重点推進事項を進めてまいりました。

1. 広い事業基盤の構築
2. 技術の先鋭化
3. グローバル顧客対応力の強化

### 当期（第55期）の主要実施施策

当連結会計年度の主な実施施策としましては、一層加速するグローバル化への戦略的対応として、事業のグローバル展開を加速するため、グローバル本社を千代田区丸の内開設し、本社機能の一部を移転しました。さらに、欧米を中心とした事業開発の推進と広い事業基盤の構築を目的として、米国 ニューヨークに北米事業の統括機能を担う子会社

# 株主の皆様へ

を設立しました。事業体制の強化としましては、バイオ関連事業は事業化促進を目的として、港区浜松町に事業所を移し、株式会社DNAチップ研究所との連携を強化しました。半導体機器事業は中国市場の顧客サポート体制の構築を目的とし、中国蘇州に当社上海現地法人の支店を設立しました。また、企業価値の向上とガバナンスの強化を目的として監査等委員会設置会社への移行、コーポレート・ガバナンス・ポリシーの制定、自己株式の取得など各種施策を実施してまいりました。

この結果、当連結会計年度の連結売上高は38,737百万円（前期比2.3%減）となり、連結営業利益は9,933百万円（前期比7.8%減）、連結経常利益は9,823百万円（前期比12.6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は5,592百万円（前期比29.4%減）となりました。

## 今期（第56期）の課題と取り組み

当社グループの事業分野であるエンブラ事業、半導体機器事業、オプト事業は日々新しい技術が生まれ、市場の変化が非常に激しい業界であり、このような環境下における当社の対処すべき課題は次のとおりです。

### ①多様な成長戦略の実行

当社の収益体制はオプト事業に偏重しており、エンブラ事業、半導体機器事業の収益性の向上、新事業開発の推進による収益の安定化・多様化が急務であると考えております。これに対応するため、エンブラ事業ではグローバル新規顧客開拓、半導体機器事業では圧倒的スピード対応による差別化、そして全社の取り組みとして業務改善プロセスの定着、戦略製品の開発推進、M&Aや新技術への投資による多様な事業機会の創出を推進してまいります。

### ②スペックビジネスの推進

当社グループが属する電子部品業界においては、技術開発競争の激化、グローバル化、顧客ニーズの多様化や高度化が加速しております。これに対応するためには、顧客目線でのデータ作りと機能保証を伴うソリューション提案が必須であると考えております。当社はこれを実現するために、強力な知財を保有し、最先端評価技術を取り込み、イノベーションへの積極投資に取り組むことで、革新的な技術に基づく高付加価値製品の提供につなげてまいります。

### ③経営リスクへの対応

当社グループを取り巻く経営上のリスクは、グローバル化の進展により益々増してきていると考えております。当社は、知的財産権に関するリスク、市場での価格競争激化と在庫調整によるリスク、為替レートの変動リスク、カントリーリスク、災害等によるリスクが当社に影響を及ぼす可能性があると考え、対応策について随時審議決定しております。また、当社の開発製品および技術に対する知的財産権に関するリスクの最小化を最重要課題として捉え、当社が保有する知的財産権の保護に努めるとともに、より強力な知財の保有を推進しております。

これらの施策に積極的に取り組むことにより、持続可能な成長の実現を図ってまいります。

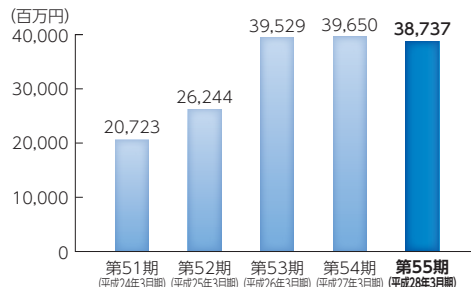
株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 連結業績の推移

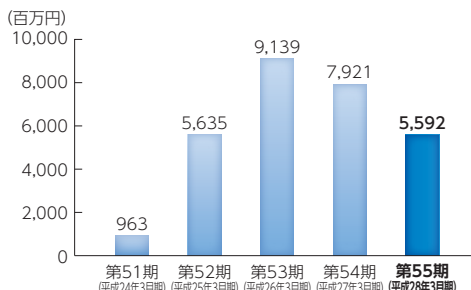
## ■ 連結売上高

1



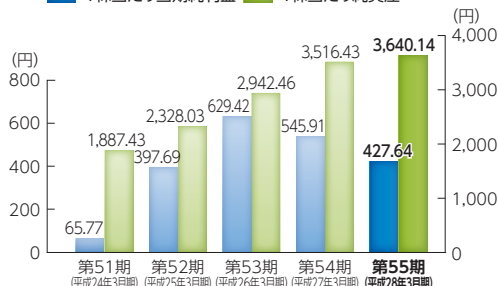
## ■ 親会社株主に帰属する連結当期純利益

3



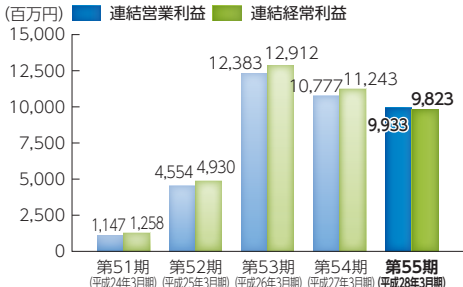
## ■ 1株当たり当期純利益 / 1株当たり純資産

■ 1株当たり当期純利益 ■ 1株当たり純資産



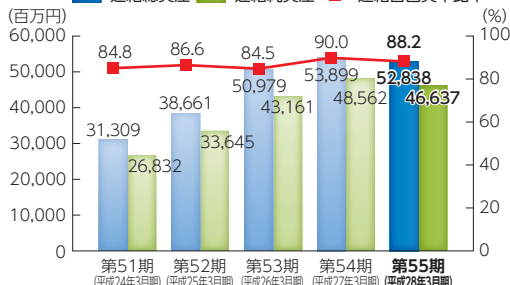
## ■ 連結営業利益 / 連結経常利益

2



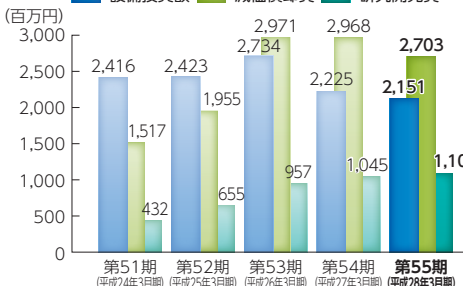
## ■ 連結総資産 / 連結純資産 / 連結自己資本比率

■ 連結総資産 ■ 連結純資産 ■ 連結自己資本比率



## ■ 設備投資額 / 減価償却費 / 研究開発費

■ 設備投資額 ■ 減価償却費 ■ 研究開発費



### ポイント 1

当期における連結売上高は38,737百万円(前期比2.3%減)となりました。

### ポイント 2

連結営業利益は9,933百万円(前期比7.8%減)、連結経常利益は9,823百万円(前期比12.6%減)となりました。

### ポイント 3

親会社株主に帰属する当期純利益は5,592百万円(前期比29.4%減)となりました。

### ポイント 4

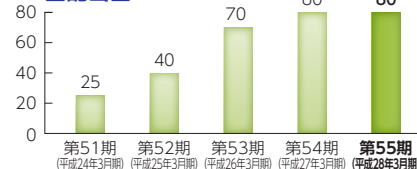
連結純資産は46,637百万円(前期比3.9%減)、自己資本比率は88.2%(前期比1.8ポイント減)となりました。

## 株主還元について

### 1株当たり 配当金80円

当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、中間配当を含む年間配当を1株当たり80円とさせていただきます。

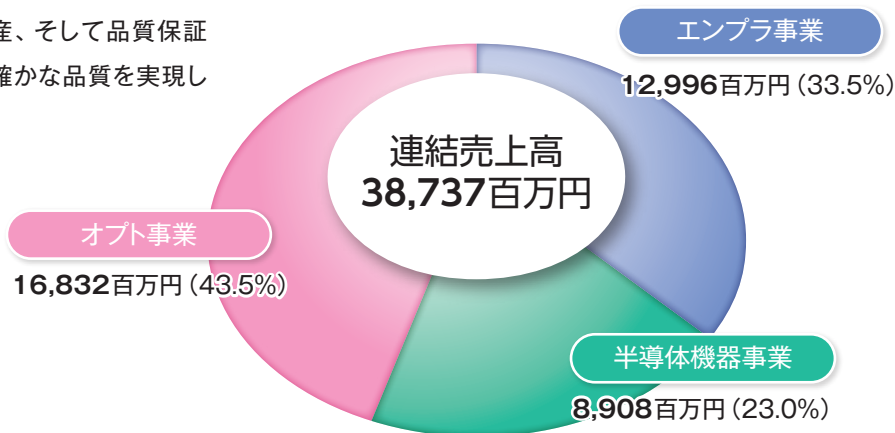
## ■ 配当金



# 事業別概況

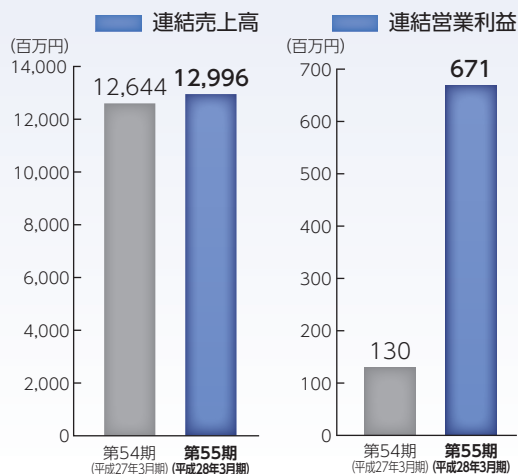
## 事業セグメント別連結売上高構成比 平成28年3月期 (平成27年4月1日から平成28年3月31日)

当社の各事業は、先進のオプティクスやエレクトロニクス技術を、基盤テクノロジーであるエンブラ技術に融合し、金型設計から量産、そして品質保証まで含めた一貫生産体制により確かな品質を実現しています。



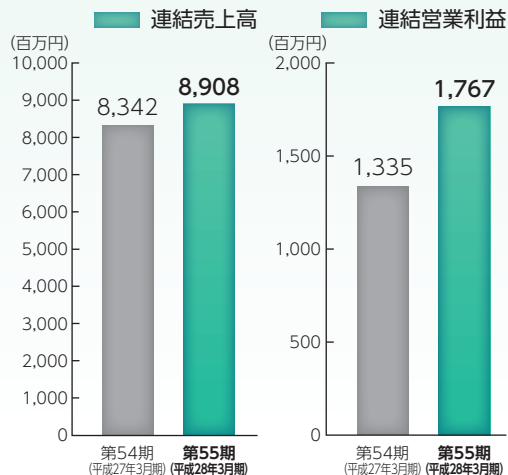
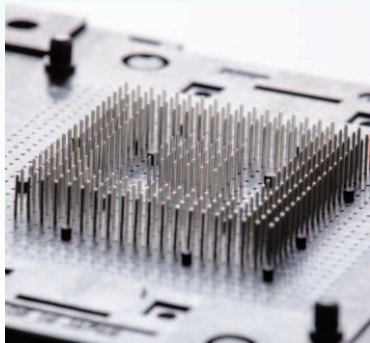
### エンブラ事業関連

当社主力製品であるプリンター用部品は市場競争による価格下落が継続したものの、自動車用部品は堅調な世界自動車販売の影響を受け、当社製品販売も好調に推移しました。また、米ドルに対する各国の通貨安の影響もあり、当期の連結売上高は12,996百万円(前期比2.8%増)、セグメント営業利益は671百万円(前期比413.7%増)となりました。



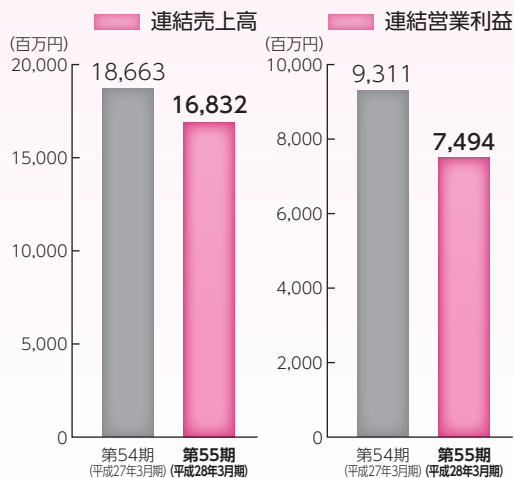
## 半導体機器事業関連

当社が戦略地域として取り組んでいる台湾市場向けの販売が堅調に推移したことに加え、欧州向け販売も好調に推移し、当社各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットともに車載、産業用途を中心に販売が増加しました。この結果、当期の連結売上高は8,908百万円(前期比6.8%増)、セグメント営業利益は1,767百万円(前期比32.4%増)となりました。



## オプト事業関連

主力のLED用拡散レンズは、新製品開発の前倒しを行い、顧客基盤の拡大を図りましたが、主要顧客への販売減少の影響を中国地域戦略を主としたマーケットシェアの増加でカバーできず、売上は低調に推移しました。一方で、光通信関連の光学デバイスは新興国を中心としたスマートフォン需要拡大を背景にクラウド・サーバー市況が堅調に推移したため受注が増加しました。この結果、当期の連結売上高は16,832百万円(前期比9.8%減)、セグメント営業利益は7,494百万円(前期比19.5%減)となりました。



# “Global Enplas”のさらなる進展に向けて

エンプラスは、平成27年11月に北米グループ統括会社として、世界最先端の技術、人材、情報が集積するニューヨークに子会社「Enplas America, Inc.」を設立しました。バイオ事業を中心とした新規事業の推進だけでなく、最先端技術を持つ欧米企業へのアプローチや、さらなる成長を促す新たな提携先の模索と情報収集に努め、欧米地域の成長機会を取り込むことで、当社グループの企業価値向上に貢献してまいります。



世界**16**の  
国と地域  
**24**社

(連結 2016年3月時点)

社員数

**1,481**名

(連結 2016年3月時点)

海外売上高比率

約**80**%

(連結 2016年3月時点)

エンプラスの2017年3月期経営基本方針の一つ

## Multiple Growth 多様な成長戦略の実行

グローバル事業推進のための重点事項

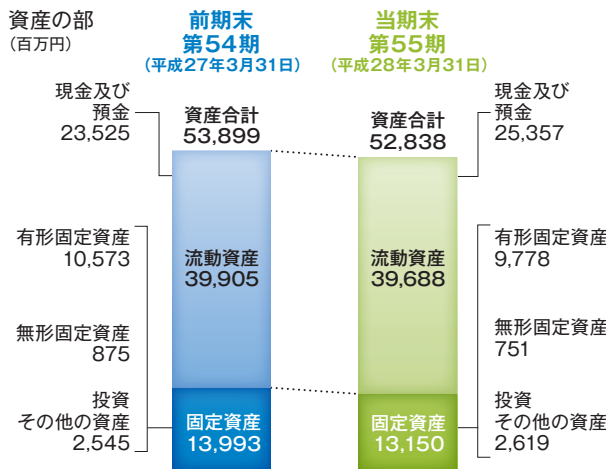
### グローバル顧客対応力の強化

- 市場をつくるトップ企業との共同作業
- 顧客目線でのデータ作りと機能提案
- グローバルネットワーク構築

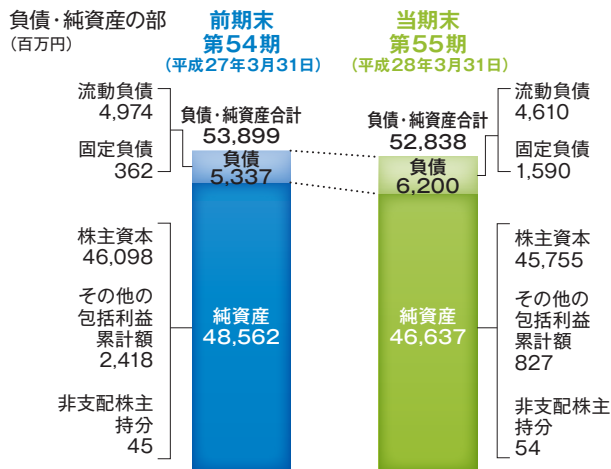


# 連結財務の状況

## ■ 連結貸借対照表の概要

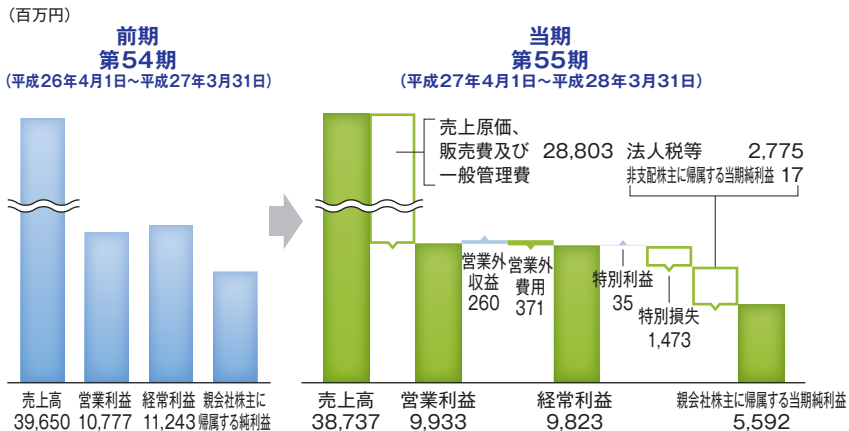


資産合計減少の主な要因は、現金及び預金で1,832百万円、原材料及び貯蔵品で384百万円増加したものの、有価証券で1,000百万円、受取手形及び売掛金で776百万円、その他で678百万円減少したことによるものです。



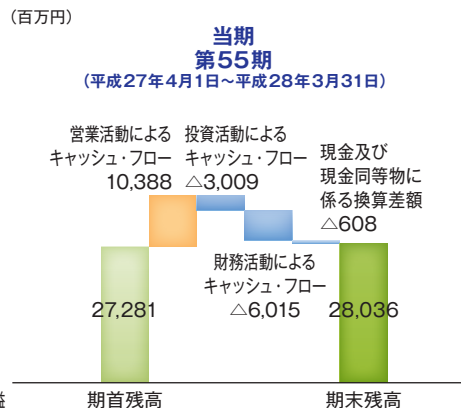
負債増加の主な要因はその他で143百万円増加したものの、買掛金で456百万円減少したことによるものです。純資産減少の主な要因は、自己株式で4,881百万円、利益剰余金で4,528百万円増加したものの、為替換算調整勘定で1,402百万円減少したことによるものです。

## ■ 連結損益計算書の概要



連結売上高は38,737百万円(前期比2.3%減)となり、連結営業利益は9,933百万円(前期比7.8%減)、連結経常利益は9,823百万円(前期比12.6%減)、親会社株主に帰属する連結当期純利益は5,592百万円(前期比29.4%減)となりました。

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要



当期における現金及び現金同等物は28,036百万円となり、前連結会計年度末に比べて、754百万円増加しました。

# 会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(平成28年6月29日現在)

## 会社概要

商号 株式会社エンプラス  
所在地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号  
設立 1962年2月21日  
資本金 80億8,045万円

(平成28年3月31日現在)

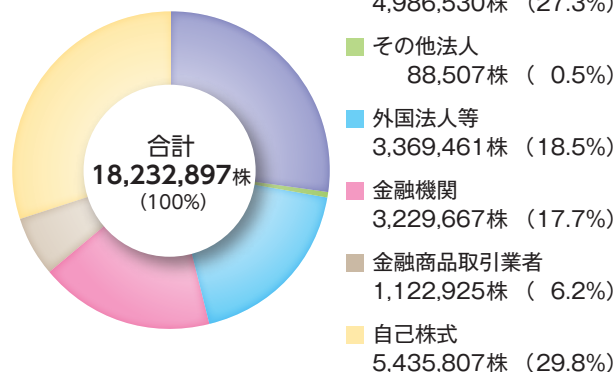
## 株式情報

発行可能株式総数 62,400,000株  
発行済株式総数 18,232,897株  
株主数 5,127名

## 取締役および執行役員

代表取締役兼社長執行役員	横田 大 輔
取締役兼専務執行役員	酒井 崇
取締役(監査等委員)	ヨーン・ヨン・リオン
取締役(監査等委員)	風 巻 成 典
取締役(監査等委員)	長谷川 一 郎
常務執行役員	菊 地 豊
執行役員	沓 沢 茂 雄
執行役員	星 野 清 孝
執行役員	君 塚 元 一
執行役員	宮 坂 章 司
執行役員	藤 田 慈 也

## 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
株主名簿管理人 東京証券代行株式会社  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社本店および全国各支店でっております。  
〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
東京証券代行株式会社 事務センター(お問い合わせ先) ☎0120-49-7009  
郵便物送付先、連絡先  
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
公告方法 電子公告(<http://www.enplas.com>)  
ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。  
貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET (<http://info.edinet-fsa.go.jp/>)にて開示しております。  
上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部

# グローバルネットワーク

## 国内ネットワーク

### グローバル本社

東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング9F

### 本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



東京都

- ・グローバル本社
- ・浜松町事業所

鹿沼工場

埼玉県川口市

- ・本社
- ・株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス
- ・株式会社エンプラス研究所
- ・QMS株式会社
- ・株式会社エンプラス半導体機器

名古屋営業所

西日本営業所

九州営業所



本社  
株式会社エンプラスディスプレイデバイス



鹿沼工場



株式会社エンプラス半導体機器



QMS株式会社



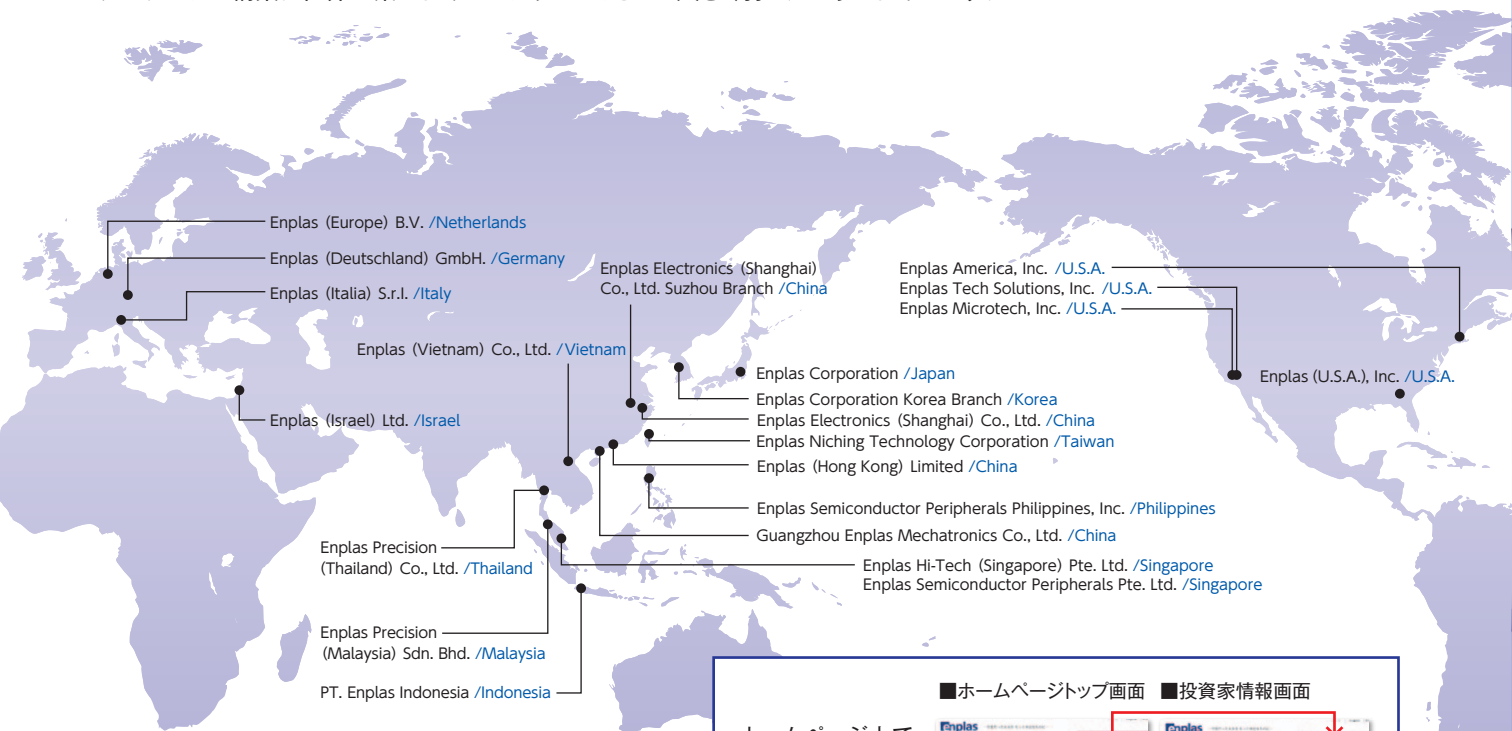
株式会社エンプラス研究所

# グローバルネットワーク

## ■ 海外ネットワーク

### 技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



## 株式会社エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号  
Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688  
http://www.enplas.com

UD FONT

見やすいユニバーサル  
デザインフォントを採用しています。



ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

■ ホームページトップ画面 ■ 投資家情報画面



エンプラス 検索 エンプラス IR 検索